

深まる切手換金疑惑

政務活動費で大量購入した切手の使途解明を目的に設置された市川市議会の百条委員会だが、調査は難航している。時間がかかるほど疑惑は深まり、市議会に対する市民の信頼が損なわれていく。事実解明に向けた市議会、各議員の真摯で精力的な取り組みが求められる。

議員グループの対立で、ほぼ全員を対象とする二つの百条委が同時にできる異例の事態に発展したのは2014年の12月下旬。1年余りがたったが、解決への道筋はまだ見えな

い。実動しないまま期限切れで消滅した二つの百条委に代わり、昨年4月の統一地方選後に新たな百条委が誕生。対象を小泉文人議員(創生市川)と鈴木啓一前議員に絞り、よつやく本格的な調査が始まった。

昨春秋には、切手の使途に疑義があるとして松永鉄兵議員(創生市川)、青山博一議員(自由民主党市川)を追加で証人喚問。返信用はがきに切手を貼ったとされる市民アンケートは本当に実施されたのかを焦点に質疑が行われた。

「実施した」と主張する小泉氏だが、アンケート印刷代の領収書発行元である自身の経営する有限会社が休眠状態と判明。「印刷は都内の別会社に発注した」と説明を翻し、「印刷代が政務活動費の上限を超えたため、有限会社の名前で領収書を発行して体裁を整えた」など、首をかしたくくなる答えが目立った。偽証しないとする「宣誓」を拒否した上、同伴した弁護士にたびたび助言を仰ぐ姿も苦しい印象を与えた。



市川支局長 篠塚 紀子

信頼回復へ早期解明を

ちば
最前線

同じ会派に所属していた時期があり、共同でアンケートを実施したとされていた青山氏は「アンケートには関わっておらず、一切知らない」と全面否定。さらに「政務活動費を精算している際、会派代表の小泉氏から『そんな面倒くさいことをする必要はない。切手を買って換金すればいい。みんなやっている』と言われた」と暴露。青山氏は「切手は自分の後援会会報の送付に使った」と説明し、自身の換金については否定したが、疑惑を深める発言として波紋を広げた。

アンケートをめぐる両者の主張が真っ向から対立。鈴木氏の発言が目されたが、鈴木氏は証人喚問の日になって「足がった」という不可解な理由でキャンセル。百条委が求めた医師の診断書も提出されなまま越年し、証人喚問は宙に浮いたままになっている。

百条委は、アンケートを印刷したとされる小泉氏と関わりのある都内の会社に、証拠となる書類の提出を求めたが、これも反応がないまま昨年12月25日の期限を過ぎた。

「アンケート実施」を裏付ける証拠は何一つ示されていない。さらに、当事者が積極的に説明責任を果たさうとしない現状では、「切手を換金した」とする疑惑は深まる一方だ。

問題の発端となった住民監査請求からは足かけ3年になる。すでに膨大な時間と費用を費やしており、百条委は明確で納得できる「解答」を市民に示す責任がある。疑惑解明が長引くほど、市議会の信頼回復の道りは険しくなる。